

履修の手引き 2024

2024入学生用

建学の精神

科学的思考に基づき健を探究できる人材の育成



AMC
AICHI MIZUHO COLLEGE

愛知みずほ大学

令和6(2024)年度 学年暦

※諸事情により予定が変更となる場合があります。その場合は事前に連絡いたします。

前期	月	火	水	木	金	土	日
3月	25 大学 入学前教育 (赤十字救急法)	26 大学 入学前教育 (赤十字救急法)	27	28 大学在学学生 オリエンテーション	29 大学在学学生 オリエンテーション	30	31
4月	1 入学式	2 オリエンテーション	3 オリエンテーション 大学_履修登録日	4 オリエンテーション 大学_抽選日	5 健康診断 大学_追加登録日	6	7
	8 授業開始	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18 履修登録修正	19 履修登録修正	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29 昭和の日	30 (大学閉鎖)	1 (大学閉鎖)	2 (大学閉鎖)	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日
5月	6 振替休日 (授業日)	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16 履修登録抹消	17 履修登録抹消	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
6月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
7月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11 履修登録抹消	12 履修登録抹消	13	14
	15 海の日	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30 (授業予備日)	31 (授業予備日)	1 定期試験	2 定期試験	3	4
8月	5 定期試験	6 定期試験	7 定期試験	8 (試験予備日)	9 (試験予備日)	10 夏期休暇 (9/19まで)	11 山の日
	12 振替休日	13	14	15	16	17	18
	19 赤十字救急法講習会	20 赤十字救急法講習会	21	22 成績発表日	23	24	25
	26	27 追・再試験	28 追・再試験	29 追・再試験	30	31	1
9月	2	3	4 医療管理学 集中講義	5 医療管理学 集中講義	6 医療管理学 集中講義	7	8
	9	10	11	12 医療事務演習 集中講義	13 医療事務演習 集中講義	14	15

・授業予備日以外にも、平日の5限目や土曜日などに補講を実施することがあります。

・大学 4月3日(履修登録日) 4月4日(抽選日) 4月5日(追加登録日)

後期	月	火	水	木	金	土	日
9月	16 敬老の日	17 大学在学生 オリエンテーション 大学履修登録修正	18 大学在学生 オリエンテーション 大学履修登録修正	19 夏期休暇終了	20 授業開始	21	22 秋分の日
	23 振替休日 (授業日)	24	25	26	27	28 大学 保証人懇談会	29
	30	1	2	3 履修登録修正	4 履修登録修正	5	6
10月	7	8	9	10	11	12	13
	14 スポーツの日 (授業日)	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24 履修登録抹消	25 履修登録抹消	26 AMC祭準備	27 AMC祭
	28	29	30	31	1	2	3 文化の日
11月	4 振替休日	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23 勤労感謝の日	24
	25	26	27	28	29	30 卒業生による 就職相談会	1
12月	2	3	4	5	6 創立記念日 (授業日)	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19 履修登録抹消	20 履修登録抹消	21	22
	23	24 冬期休暇 (1/5まで)	25	26	27	28	29
	30	31	1	2	3	4	5 冬期休暇終了
1月	6	7	8	9	10	11	12
	13 成人の日	14	15	16	17 (共通テスト準備による 大学閉鎖)	18 (共通テストによる 大学閉鎖)	19 (共通テストによる 大学閉鎖)
	20	21 (授業予備日)	22 (授業予備日)	23 定期試験	24 定期試験	25	26
	27 定期試験	28 定期試験	29 定期試験	30 (試験予備日)	31 (試験予備日)	1	2
2月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11 建国記念の日	12 成績発表日	13	14	15	16
	17 追・再試験	18 追・再試験	19 追・再試験	20	21	22	23 天皇誕生日
	24 振替休日	25	26	27	28	1 大学 保証人懇談会	2
3月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15 大学 学位記授与式	16
	17	18	19	20 春分の日	21	22	23
	24	25	26	27 大学在学生 オリエンテーション	28 大学在学生 オリエンテーション	29	30
	31						

・授業予備日以外にも、平日の5限目や土曜日などに補講を実施することがあります。

○は授業回数

目 次

AMC学修成果ルーブリック	2
愛知みずほ大学 コモンルーブリック	4
カリキュラムマップ	6
開設授業科目と単位数及び学位授与方針との関係	8
令和6(2024)年度に開設する授業科目一覧	
卒業要件として修得を必要とする単位数等	16
開設授業科目・単位数および履修基準等	17
その他履修に関すること	
卒業論文取扱要領	24
実務経験のある教員による授業科目の配置	29
愛知学長懇話会単位互換事業	32
放送大学との単位互換事業	33
愛知みずほ短期大学単位互換提供科目一覧	35
愛知みずほ短期大学との連携開設科目一覧	36
愛知みずほ大学 履修規程	37

■ AMC学修成果ルーブリック（2024年度～）

基準		尺度		程度			
				十分に到達している	満足できる (DP達成)	努力を要する	努力を要する
①知識・技術	健康を多面的に理解することができる。	A	身体	身体の健康を理解し、説明することができる。	身体の健康に関する知識を十分に理解し、健康生活のための維持・増進の説明だけにとどまらず、生涯の健康を見据えた身体の健康の価値についても説明することができる。	身体の健康に関する知識を理解し、健康な生活のための維持・増進、また疾病予防や対処法も含めて具体的に説明することができる。	身体の健康に関する知識は持っているが、理解が不十分のため、健康な生活のための維持・増進、また疾病予防や対処法も含めて説明することができない。
		B	心	心の健康を理解し、説明することができる。	心理学についての基礎知識や背景について理解し、多様な社会の中で発生する人間の心の健康の問題に心理学的な見解をもって、対処する仕方について説明することができる。	心理学についての基礎知識や背景について理解し、人間の心の健康にそれらがどのような影響を持っているかを説明することができる。	限定された心理学についての基礎知識や背景について理解しているが、人間の心の健康にそれらがどのような影響を持っているかを総合的に説明することができない。
		C	社会	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	日常生活において価値観や文化的・社会的背景の違いによってもめ事や摩擦などが生じる過程について理解し、それらに対応できる制度等について説明することができる。	様々な社会問題と人々の多様な価値観や背景について理解し、それらがどのように影響を及ぼしているかを説明することができる。	世の中に様々な価値観を持つ人がいることを理解しているが、その相違と背景、多様な個人が全体として一つの社会を形成していることを説明することはできない。
②汎用的能力・技能	科学的に思考することができる。	A	科学的思考の基礎	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。 →課題発見力、原因究明力	様々な出来事に対して課題を発見・認識し、明確な根拠を基に論理的に説明する力がある。	興味関心のあることに対して課題を発見・認識し、論理的に説明する力がある。	身近な出来事に対し、疑問を持つことはできるが、論理的に説明する力が不十分である。
		B	科学的思考のためのツール活用力	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。 →ITスキル、語学力、分析力、判断力	情報機器や情報ネットワークを活用して、情報を収集することができる。情報の信憑性や妥当性、価値を識別する適切な判断力・分析力が備わっている。	情報機器や情報ネットワークを活用して、複数の情報源から情報を収集し、分析することができる。	情報機器や情報ネットワークを活用して情報を収集することはできるが、取捨選択したり整理したり、価値付けることができない。
		C	科学的思考の活用	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。 →問題解決力、論理的説明力	課題の原因の追求とその解決にあたり、根拠を基に多視点から考察でき、最善策を選択し、解決することができる。	課題の原因の追求とその解決にあたり、根拠を基に考察でき、解決することができる。	課題の原因の追求とその解決にあたり、十分とは言えないが根拠を基に解決策を見つけることができる。
③態度・志向性	自己を管理し、目標を立てて行動することができる。	A	PDCA	目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。	自律的に、組織的に目標をかかげ、計画を立てて実行し、客観的なデータを基に振り返り、改善するサイクルを繰り返すことができる。	自律的に、個人的な目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、改善するサイクルを繰り返すことができる。	目標をかかげ達成すべく、計画を立てて実行し、振り返り、改善するのに周りの人の支援を要する。
		B	自分の健康づくり	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。	自分の理想的な心身状態や社会における在り方を思い描き、心身面、社会面の現状を分析して、課題を見出し、解決策を積極的に実行することができる。	自分の精神的・身体的な状態や社会における在り方について理想を思い描き、それを実現すべく行動することができる。	自分の心や身体の健康状態を良好に保つことを志向し、継続的に行動することができる。
		C	チームワーク	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。	仲間と自分の役割や考え方を大切に、様々なコミュニケーションをとりながら協力・協働して物事に取り組み、組織の成長につなげることができる。	仲間と自分の役割や考え方を把握し、組織の目標達成のために自らがどのように振る舞えば効果的か判断して取り組むことができる。	組織の目標達成のために割り振られた自分や仲間の役割を理解してはいるが、状況に応じて自ら判断して仲間を支援する行動をとることができない。
④総合的活用	社会を意識して行動することができる。	A	社会貢献への認識と実践	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。	社会貢献や地域活動等において、心身面や社会面で健康であることの意義を語り、共感を得て、活動を展開していくことができる。	社会貢献や地域活動等において、対象者や参加者に対して健康であることの意義を語るすることができる。	健康に関する社会貢献活動や地域活動に参加することがある。
		B	健康論の確立	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。	自ら確立した具体的な健康論を基にして、健康な社会の実現に向けて、課題を解決するためのアイデアを他者や社会に実行可能なかたちで示すことができる。	精神的・身体的・社会的に良好な状態の健康論を自分なりに解釈し、自らの言葉で具体的に示すことができる。	学修によって得られた知見を基にして、自分なりの健康論について考えを持っているが、他者に説明できるほど具体的な提案には至っていない。

■ 総合的活用のコース別表現

基準		尺度		
		十分に到達している	満足できる (DP 達成)	努力を要する
養護・保健	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	心身と疾病に関する基礎知識を活かし実践活動へと発展させることができる。リーダーの役割を担う力を有し、周囲の人々の身体と心の健康づくりをサポートができる。	心身と疾病に関する基礎知識を有し、社会的に身体と心の健康づくりのサポートができる。	心身と疾病に関する基礎知識を有しているが、社会的に身体と心の健康づくりをサポートするにはまだ不十分である。
健康スポーツ	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる	運動・スポーツ及び健康に関する知識・技能を活用できる実践力があり、リーダー的な存在として健康づくりをサポートできる。	運動・スポーツ及び健康に関する知識・技能を有し、総合的に健康づくりをサポートできる。	運動・スポーツ及び健康に関する知識・技能を有しているが、実践力が十分になく限定的な健康づくりをサポートできる。
心理・カウンセリング	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	「心」についての知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる多大な実践力を持っている。それらの知見を活用して、心理学の観点から課題を捉え直し、他者への働きかけにより、健康な社会の実現のために貢献することができる。	「心」についての知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持っている。それらの知見を活用して心理学の観点から課題を捉え直すことで、自ら行動し健康な社会の実現のために貢献することができる。	「心」についての知識を部分的に修得しているが、心の健康を育成・発展させる実践力はまだ育っていない。したがって、健康な社会の実現のために心理学の知見を活用して課題を捉え直す力は不十分である。
健康科学	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	社会を多視点から科学的に捉え、健康な社会を理解し、科学的根拠を尊重し、健康な社会を目指すことができる。	社会を多視点から科学的に捉え、多様な価値観の存在を受容し、健康な社会の実現に向けて、科学的根拠を基に積極的に寄与することができる。	社会を多視点から捉え、健康な社会をイメージし、その実現を目指すことができる。

愛知みずほ大学 コモンルーブリック

愛知みずほ大学では、レポート、プレゼンテーション、グループワーク、実技の4つの学習課題について、皆さんが到達すべき具体的な姿を示した「コモンルーブリック」を作成しました（実技に関してはサッカー競技の例を示しています）。各授業で活用される際には、教員によりこの表に従って課題の到達度に対する評価が行われますので、学生の皆さんはルーブリックを課題に取り組む指針とすることができます。なお、「コモンルーブリック」は卒業までに学生が身に付けることが期待されるレベルを想定して作成されていますので、各授業で活用される際には、教員により観点毎に期待値が設定されます。また、科目の到達目標や課題の内容に応じて、新たな観点を加えるなどアレンジが行われることがあります。

(1) レポートの評価基準と期待値

レベル 観点	3	2	1	0	期待値
内容理解	①課題を理解し、指示どおりにレポートの内容を構成している。 ②課題に係る専門用語や問題背景を正確に理解している。	①・②がおおむね達成できている。	①・②のいずれかを達成している。	①・②のどちらも達成できていない。	
論理構成	①結論と根拠が明示されている。 ②自身の意見を表明し、課題に係る考察を深めている。 ③レポート全体の主張が一貫している。	①～③のいずれか2つを達成している。	①～③の1つしか達成できていない。	①～③のどれも達成できていない。	
精緻性	①誤字脱字のない文章である。 ②主語や述語の関係など、文法的に確実である。 ③文体が統一されている。	①～③のいずれか2つを達成している。	①～③の1つしか達成できていない。	①～③のどれも達成できていない。	
引用方法	引用、参考に関しては、瀬木学園紀要投稿規定の「引用文献の表記方法」を基本に、関係領域の引用方法を正確に守っている。	引用・参考の仕方が間違っている。	引用・参考の注釈がない。	引用・参考がない。	

(2) プレゼンテーションの評価基準と期待値

レベル 観点	3	2	1	0	期待値
内容	①明確で洞察に値する課題を発見し、その理由を具体的に説明できる。 ②課題に関して適切な方法で先行文献を調べ、調査、実験等を行う。 ③課題について探求した結果を深く洞察、分析している。	①～③のうち、2つはできている	①～③のうち、1つはできている	①～③、すべてできていない。	
構成	①明確な論点、テーマを明示している。 ②理論的に構成されており、結論に関して明確な論拠を示している。 ③適切な具体例等を明示している。	①～③のうち、2つはできている	①～③のうち、1つはできている	①～③、すべてできていない。	
発表資料	①適切な大きさの文字を使用している。 ②図表が的確に使用されている。 ③説得力のある資料である。	①～③のうち、2つはできている	①～③のうち、1つはできている	①～③、すべてできていない。	
発表姿勢	①聴衆を見ながら発表ができている。 ②十分な声量で発表ができている。 ③適切なスピードで発表ができている。	①～③のうち、2つはできている	①～③のうち、1つはできている	①～③、すべてできていない。	
発表時間	時間配分が適切である。	ほぼ、時間内である。	時間が少し超過している。あるいは少し短い。	時間を大幅に超過している。あるいは大幅に短い。	

(3) グループワークの評価基準と期待値

観点	レベル	3	2	1	0	期待値
話し合いへの参加		話し合いを進めるような発言を積極的にしている。	話し合いに関連する発言をしている。	話し合いの場に参加している。	話し合いの場に参加していない。	
話し合いへの参加促進		他のメンバーが発言できるよう話し合いの流れを作り出すことで、メンバーの積極的参加を促している。	メンバーの発言を整理し、関連付けた上で発言するなどして、メンバーの積極的参加を促している。	あいづちを打つ、頷くなどして理解を態度に示すことで、メンバーの参加を促している。	他のメンバーの話を聞いていない。	
グループワークの個人貢献		グループワークに積極的に参加して、課題の達成に多大な貢献ができています。	グループワークに参加し、課題の達成に貢献ができています。	グループワークに参加して作業の遂行に協力している。	グループワークに参加せず、作業を手伝っていない。	
グループの雰囲気づくり		積極的にグループの雰囲気を良くしようと、雰囲気が悪くなった時には、それを解消しようとしている。	雰囲気を良くするために、自ら発言や行動をし、メンバーをサポートしている。	雰囲気が良くなるようにメンバーに合わせた発言や行動をしている。	雰囲気を悪くするような発言や行動をしている。	

(4) 実技の評価基準と期待値 【「野外活動・レクリエーション実践（サッカー）」】

観点	レベル	3	2	1	0	期待値
健康管理	①体調管理	気力が充実し体調万全で参加している。	体調を整えている。	特に気を付けていない。	気力が不十分であったり、体調を崩しやすく欠席、見学が多い。	
	②ケガ・病気の予防	準備体操や整理体操、水分補給等にしっかりと取り組むことができている。	準備体操や整理体操、水分補給等に概ね取り組むことができている。	準備体操や整理体操、水分補給等への取り組みがあまりできていない。	準備体操や整理体操、水分補給等への取り組みが全くできていない。	
運動技能	①リフティング	連続して男子 20 回、女子 10 回以上行うことができる。	連続して男子 10 回、女子 5 回以上行うことができる。	連続して男子 5 回、女子 3 回以上行うことができる。	連続して男子 5 回、女子 3 回以上行うことができない。	
	②インサイドパス	対人相手と連続 20 回以上正確にパスを行うことができる。	対人相手と連続 10 回以上正確にパスを行うことができる。	対人相手と連続 3 回以上正確にパスを行うことができる。	対人相手と連続して 3 回以上パスを行うことができない。	
競技知識	①ルール理解	サッカーのルールを詳細まで理解して審判を行うことができる。	サッカーの細かいルールも理解している。	サッカーの主なルールは理解している。	サッカーのルールを理解していない。	
	②練習計画の作成	グループでの練習計画の時間配分や練習内容が適切で参加者の満足度が高い内容を検討している。	グループでの練習計画作成において、参加者が概ね満足できる内容を検討している。	グループでの練習計画作成において、概ね時間通りに練習が進められている。	グループでの練習計画作成において、時間配分、内容ともに不備があり内容が理解できない。	
社会的行動	①リーダーシップ	グループ内で練習、試合中に効率よく明確に指示することができる。	グループ内で練習、試合中に指示を伝えている。	グループ内で練習、試合中にあまり指示を伝えていない。	グループ内で練習、試合中に全く指示を伝えていない。	
	②協調性	グループ内のチームメイトに声掛けなどをしながら良く協力しあっている。	チームメイトと同調し和を乱さず協力している。	概ねチームメイトと協力できている。	自分勝手な行動があり、協力できていない。	
	③積極性	好奇心を持ち積極的に挑戦し成し遂げることができている。	前向きに取り組む努力している。	挑戦しようとしているが、あきらめることが多い。	挑戦せず、できないと決めつけている。	

カリキュラムマップ

育成を目指す力	第一階層	科学的思考力を身につける。	健康に関する基礎的な知識を修得する。				健康づくりのための実践的な力を身につける。			心身の健康に関する専門的知識、研究方法を修得する。	健康社会に関する共通した専門知識を修得する。
	第二階層	課題発見から解決のための手順を考え、実行し、解決のため、データを根拠とする「科学的な思考」を身につけ、健康をはじめ社会における新たな課題解決のプロセスに発展させる。そして自分の人生を充実させる力とする。	人間の健康に深く関わるための基礎。「人間とは」という問いについて多面的に探求するために必要となる、複数の学問的アプローチ法を知る。	一人一人の幸福と、社会全体の幸福の調和を図る方法を探求するための基礎。社会の一員として生きる人間の生活を考えるために必要な社会の仕組み、ルール、現代社会の課題などを知る。	「豊かで活力ある健康社会」を実現しようとするとき、私たちが目指す「健康」とはどのような状態であるのかについて考え、理解を深める。	日常生活の中でも身近になっている外国語について、言語の背景などにも関心を持ちながら学び、生活の中で生きるコミュニケーション能力を身につける。	情報通信技術を活用し、多種多様な情報を収集・分析する能力およびモバイルを身につけるため、パソコンやインターネットの活用に必要な基礎知識・技術を実践的に身につける。	自分がこれから健康で、どのような未来を切り開き、人生を歩んでいくかを「仕事」を中心に考え、「仕事」の選び方、準備のしかたなどを身につける。	「健への探究」に必要な研究方法に関する技術および基本的な専門的知識を修得する。	社会、身体、心理学領域で学ぶ専門科目に共通して必要となる基礎知識を修得する。	
科目群	基礎科目群(B)							研究科目群(R)	専門科目群(S)		
	科学的思考の基礎科目	健康を知る基礎科目				健康を創る実践力形成科目				研究領域(1)(2)	社会領域
分類	科学的思考講座(1)	心を知る(2)	社会を知る(3)	身体を知る(4)	コミュニケーションリテラシー(5)	数理・AI・データサイエンス(6)	キャリアデザイン(7)	研究領域(1)(2)	心身の健康(病気のけがとその予防)(1)		
4年後期								健への探究	←		
4年前期											
3年後期							キャリアデザイン演習(仕事生活のための学び)	健康科学演習			
3年前期					英語講読(応用)		キャリアデザイン実習(インターンシップ5日以上)		健康・医療心理学 人間関係論 健康スポーツ科学		
2年後期			共生文化論 市民社会論(連携)	Yoga	英語コミュニケーション(上級会話)	数理科学概論	キャリアデザインの理論	リフレクティブ・ラーニング(PDCA)	健康実践Ⅱ 公衆衛生学(疫学を含む。) 精神保健Ⅱ 教育行政 教育史 社会心理学		
2年前期	ロジカルプレゼンテーション		文章表現(国語) ESD入門(連携)	ニューススポーツ実践	英語コミュニケーション(中級会話) 英語講読(基礎)	統計学概論	キャリア発達の心理学 アントレプレナーシップ入門		健康実践Ⅰ 精神保健Ⅰ 社会調査法 教育心理学 教育相談(カウンセリングを含む。)		
1年後期	プレゼミⅡ ロジカルシンキング(思考)	人間と美術 人間と音楽 心理学概論 心理学入門	社会生活と法 現代社会の構造と問題	笑いと健康(連携) 健康生活 野外活動・レクリエーション実践(カカ) 健康と栄養	英語コミュニケーション(初級会話)	データサイエンス(連携) 統計学入門	産業・組織と人間行動の理解		心身健康論 行動科学概論 救急処置法 レクリエーション概論・実践		
1年前期	プレゼミⅠ 探究への学び みずほ学	人間関係と倫理学 人間と社会(連携) はじめての心理学	日本国憲法 現代社会のマネジメント(連携) 社会で役立つ数学 生物調査法	健康へのアプローチ 野外活動・レクリエーション実践(バスケボール) 野外活動・レクリエーション実践(バドミントン) 野外活動・レクリエーション実践(テニス) 野外活動・レクリエーション実践(卓球)	英語コミュニケーション(入門) 韓国語入門 中国語入門	情報リテラシー はじめての情報活用			教育原論		

人々の健康の維持、増進に関わる専門職業人にふさわしい知識、技術を修得する。		養護に関する専門知識を有し健康づくりをサポートできる。		人々の心の健康の理解と支援に関わる専門的知識、技術を修得する。			教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を修得する。				
からだをつくる3大栄養素とエネルギーバランスについて学ぶとともに、からだの調子を整えるミネラル・ビタミンと健康の関係について、日常生活における事例や健康問題をもとに理解を深め、健康増進のための専門的知識を修得する。	身体活動やスポーツに関連するからだの仕組みについて学ぶとともに、運動の実践を通して生涯にわたり健康で活動的な生活をするための安全で効果的な運動の理論と方法を修得することにより健康社会に貢献するための資質を身につける。	健康教育について学び、看護や救急処置に必要な技術を習得することにより、健康な生活への実践力を身につける。	心理学研究法の基礎を修得する。	心の成り立ちと機能について、生理・心理・社会的側面から修得する。	悩み、不適応、疾病などについて、どう見立て、支援するのか、理論と実践を修得する。	公認心理師を目指す人に必要とされる基本的技能と、公認心理師に関わる法的・職業的倫理を修得する。					
専門科目群(S)							教職科目群(T) ※卒業単位に含めない。				
身体領域			心理領域								
健康・栄養学(2)	健康とスポーツ(3)	健康・保健・養護学(4)	心理の研究法(5)	心理学の理論(6)	心理学の実践(7)	心理職のための知識・技能(8)	教育の基礎的理解(1)	道徳、総合的な学習時間等の指導法、生徒・教育相談(2)	教育実践に関する科目(3)	養護に関する科目(4)	
			卒業論文 健康科学研究						教職実践演習(中・高) 教職実践演習(養護教諭)		
	障害者スポーツ								養護実習事前・事後指導 養護実習 教育実習事前・事後指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ		
栄養診断演習	体育実技(柔道) 健康運動指導論 運動プログラムの管理(運動療法(2)を含む。) 健康運動指導実習	健康教育・保健実経営演習 社会福祉概論			司法・犯罪心理学 産業・組織心理学 福祉心理学	心理演習 公認心理師の職責	教職論作文・面接技法Ⅱ 教職教養Ⅱ	保健体育科教育法Ⅳ 保健科教育法Ⅳ		養護活動演習Ⅱ	学校救急処置(臨床実習を含む)
健康管理学概論	スポーツ指導実践 運動生理学演習 トレーニング・フィットネス演習	青少年期発達支援論 高齢者の保健		神経・生理心理学 感情・人格心理学 スポーツ心理学	障害者・障害児心理学 青年心理学 心理学的支援法	心理的アセスメント 関係行政論	教職論作文・面接技法Ⅰ 教職教養Ⅰ	保健体育科教育法Ⅲ 保健科教育法Ⅲ	教育実習事前・事後指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	養護活動演習Ⅰ	
	スポーツ社会学 コーチング論 体育原理 ジュニアスポーツ指導論 健康スポーツ医学(運動療法を含む。) トレーニング・フィットネス論	健康相談・健康相談活動Ⅰ 健康相談・健康相談活動Ⅱ ヘルスアセスメントⅠ ヘルスアセスメントⅡ 子どもの保健	心理データ解析演習 心理学実験Ⅱ	知覚・認知心理学 学習・言語心理学 社会・集団・家族心理学	精神疾患とその治療 教育・学校心理学		教育課程論	保健体育科教育法Ⅱ 保健科教育法Ⅱ 教育方法及び技術(情報通信技術の活用を含む。)			
健康栄養学 ライフステージと病 気予防の栄養学 生活習慣病論	体育実技(器械運動) 体育実技(陸上) 体育実技(球技Ⅰ) 体育実技(ダンス) スポーツマネジメント 運動生理学 運動学(運動方法学を含む。)	基礎看護方法論Ⅰ 基礎看護方法論Ⅱ 薬理学概論 養護概説 ライフサイクルと健康	心理学研究法 心理学統計法Ⅱ 心理学実験Ⅰ	発達心理学 比較心理学 心と健康の心理学	臨床心理学概論		特別支援教育概論	保健体育科教育法Ⅰ 保健科教育法Ⅰ 進路指導の理論と実践 生徒指導の理論と実践 道徳教育の理論と実践 特別活動及び総合的な学習の指導法 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の理論			
栄養学入門(食品学を含む。) 病気の成り立ち(人体の構造と機能及び疾病Ⅱ)	体育実技(剣道) 体育実技(球技Ⅱ)	学校保健 看護学概論	心理学統計法Ⅰ				教育職入門				
解剖・生理学(人体の構造と機能及び疾病Ⅰ)	体育実技(水泳) 野外活動基礎実習										

開設授業科目と単位数及び学位授与方針との関係

科目分類	科目名	科目ナンバ	卒業必修・選択	教職必修・選択	心理資格公認認定	健康推進士資格	保健師	医務士	単位数	①知識・技術 健康を多面的に理解することができる。	②応用的能力・技能 科学的思考を深め、科学的現象を説明し、説明することができる。	③態度・志向性 自己を管理し、目標を立てて行動することができる。	④総合的活用 社会を鑑み、行動することができる。	⑤専門分野の能力	備考
科学的思考の基礎科目	探究への学び	B1101							2	○	○				
	みずほ学	B1102							2		○				
	ブレゼミⅠ	B1103	必修						2	○					
	ブレゼミⅡ	B1104	必修						2	○	○				
	ロジカルシンキング(必修)	B1105	必修						2	○	○				
	ロジカルプレゼンテーション	B1201	必修						2	○	○				
	人間関係と倫理学	B2101							2	○					
	人間と社会(選択)	B2102							2	○					
	人間と美術	B2103							2	○					
	人間と音楽	B2104							2	○					
健康を学ぶ基礎科目	はじめての心理学	B2105							2	○	○				
	心理学概論	B2106	必修		公認認定				2	○	○				
	心理学入門	B2107							2	○	○				
	日本語法	B3101							2	○	○				
	現代社会のマネジメント(選択)	B3102							2	○	○				
	社会で役立つ数学	B3103							2	○	○				
	生物顕微鏡法	B3104							2	○	○				
	社会生活と法	B3105	選択						2	○	○				
	現代社会の構造と問題	B3106	選択						2	○	○				
	文庫表紙(国語)	B3201							2	○	○				
社会を知る(3)	ESD入門(選択)	B3202							2	○	○				
	社会文化論	B3203							2	○	○				
	市民社会論(選択)	B3204	選択						2	○	○				
	健康へのアプローチ	B4101							2	○	○				
	食いと健康(選択)	B4102							2	○	○				
	健康生活	B4103	必修						2	○	○				
	健康と栄養	B4104							2	○	○				

科目分類	科目名	単位数	単位	①知識・技術 健康を多面的に理解することができる。	②科学的思考力・技能 科学的思考を原動力として、科学的に考察することができる。	③態度・志向性 自己を管理し、目標を立てて行動することができる。	④総合的活用 社会を認識し、行動することができる。	⑤専門分野の能力	取得可能な資格
社会領域	教育概論	S1101	2	1	○		○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	心身健康論	S1102	2	1	○		○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	行動科学概論	S1103	2	1	○		○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	救急処置法	S1104	2	1	○		○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	レクリエーション概論・実践	S1105	2	1	○		○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	健康実践 I	S1201	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	健康実践 II	S1202	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	公衆衛生学(仮学号を含む)	S1203	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	精神健康 I	S1204	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	精神健康 II	S1205	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	社会調査法	S1206	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	教育心理学	S1207	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	教育概論(カウンセリングを含む)	S1208	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	教育行政	S1209	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	教育史	S1210	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	社会心理学	S1211	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	健康・高橋心理学	S1301	2	3	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	人間関係論	S1302	2	3	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	健康スポーツ科学	S1303	2	3	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	解剖・生理学(人体の構造と機能及び疾病 I)	S2101	2	1	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	解剖・生理学(人体の構造と機能及び疾病 II)	S2102	2	1	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	栄養学入門(食品学を含む)	S2103	2	1	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
	健康栄養学	S2201	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○
予防医学概論	S2202	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○	
生活習慣病論	S2203	2	2	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○	
健康心理学概論	S2301	2	3	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○	
栄養学新演習	S2302	2	3	○	○	○	健康スポーツコース 健康科学コース 健康社会の在り方を深く理解し、健康社会の発展に貢献するための実践力を養うことができる。	○	
身体領域									

科目群分類	科目名	科目ナンバ	卒業必修選択	教職必修選択	心理資格公認	保健師	医療士	単位数	健康を多面的に理解することができる。	①知識・技術	科学的知識・技能	科学的に思考することができる。	健康を多面的に理解することができる。	科学的知識・技能	②科学的知識・技能	自己を管理し、目標を立てて行動することができる。	③態度・志的性	自己を管理し、目標を立てて行動することができる。	健康を多面的に理解することができる。	社会的意識を涵養することができる。	④社会的活用	⑤専門分野の能力	⑥免許取得			
教育の基礎的素養(1)	教育職入門	T1101	◎林(中高) ◎保(中高)					2	1												健康コースで、健康の重要性を学ぶ。		○			
	特別支援教育概論	T1201	◎林(中高) ◎保(中高)					1	2													健康コースで、特別支援教育の重要性を学ぶ。		○		
	教育課程論	T1202	◎林(中高) ◎保(中高)					2	2													健康コースで、教育課程の重要性を学ぶ。		○		
	教育実践Ⅰ	T1301						1	3													健康コースで、実践の重要性を学ぶ。		○		
	教育実践Ⅱ	T1302						1	3													健康コースで、実践の重要性を学ぶ。		○		
	教職論文・実践技法Ⅰ	T1303						1	3													健康コースで、論文・実践の重要性を学ぶ。		○		
	教職論文・実践技法Ⅱ	T1304						1	3													健康コースで、論文・実践の重要性を学ぶ。		○		
	保健体育科教育法(2)	保健体育科教育法Ⅰ	T2201	◎林(中高)					2	2													健康コースで、保健体育科教育法の重要性を学ぶ。		○	
		保健体育科教育法Ⅱ	T2202	◎保(中高)					2	2													健康コースで、保健体育科教育法の重要性を学ぶ。		○	
		運動指導の理論と実践	T2203	◎林(中高) ◎保(中高)					1	2													健康コースで、運動指導の重要性を学ぶ。		○	
		生涯学習の理論と実践	T2204	◎林(中高) ◎保(中高)					2	2													健康コースで、生涯学習の重要性を学ぶ。		○	
		運動指導の理論と実践	T2205	◎林(中)					2	2													健康コースで、運動指導の重要性を学ぶ。		○	
		特別活動及び総合的な学習の指導法	T2206	◎林(中高) ◎保(中高)					2	2													健康コースで、特別活動の重要性を学ぶ。		○	
		選抜、総合的な学習の時間等の指導法	T2207	◎林(中高) ◎保(中高)					2	2													健康コースで、選抜・総合的な学習の重要性を学ぶ。		○	
		教育方法及び技術(情報通信・教育技術)の活用を含む。	T2208	◎林(中高) ◎保(中高)					2	2													健康コースで、教育方法及び技術の重要性を学ぶ。		○	
		保健体育科教育法(3)	保健体育科教育法Ⅱ	T2209	◎林(中高)					2	2													健康コースで、保健体育科教育法の重要性を学ぶ。		○
			保健体育科教育法Ⅲ	T2210	◎保(中高)					2	2													健康コースで、保健体育科教育法の重要性を学ぶ。		○
	保健体育科教育法Ⅳ		T2301	◎林(中) ◎保(中高)					2	3													健康コースで、保健体育科教育法の重要性を学ぶ。		○	
	保健体育科教育法Ⅴ		T2302	◎保(中) ◎保(中高)					2	3													健康コースで、保健体育科教育法の重要性を学ぶ。		○	
	保健体育科教育法Ⅵ		T2303	◎林(中) ◎保(中高)					2	3													健康コースで、保健体育科教育法の重要性を学ぶ。		○	
	保健体育科教育法Ⅶ		T2304	◎保(中) ◎保(中高)					2	3													健康コースで、保健体育科教育法の重要性を学ぶ。		○	
	教育実践に関する科目(3)	教育実習事前・事後指導	T3301	◎林(中高) ◎保(中高)					1	3													健康コースで、教育実習の重要性を学ぶ。		○	
教育実習Ⅰ		T3302	◎林(中高) ◎保(中高)					2	3													健康コースで、教育実習の重要性を学ぶ。		○		
教育実習Ⅱ		T3303	◎林(中) ◎保(中高)					2	3													健康コースで、教育実習の重要性を学ぶ。		○		
教育実習事後・事後指導		T3401	◎保					1	4													健康コースで、教育実習事後指導の重要性を学ぶ。		○		
基礎実習		T3402	◎保					2	4													健康コースで、基礎実習の重要性を学ぶ。		○		
教職実践演習(中高)		T3403	◎林(中高) ◎保(中高)					2	4													健康コースで、教職実践演習の重要性を学ぶ。		○		
教職実践演習(看護・介護)		T3404	◎保					2	4													健康コースで、教職実践演習の重要性を学ぶ。		○		
学校高等公開(臨床実習を含む。)		T4301	◎保					4	3													健康コースで、学校高等公開の重要性を学ぶ。		○		
保健に関する科目(4)	保健活動演習Ⅰ	T4302	◎保					2	3													健康コースで、保健活動演習の重要性を学ぶ。		○		
	保健活動演習Ⅱ	T4303	◎保					2	3													健康コースで、保健活動演習の重要性を学ぶ。		○		

※ 卒業単位は必ずしも一致しない。

令和 6 (2024)年度の入学者向け科目一覧

令和6(2024)年度の入学者

卒業要件として修得を必要とする単位数等

本学において卒業の資格を得ようとする者は、本学に4年以上在学し、次に掲げる授業科目の単位を含め、124単位以上を修得する必要があります。

科目群分類			科目区分別必要最低修得単位数			
			必修科目	選択必修科目	選択科目	計
基礎科目群	科学的思考の基礎科目	科学的思考講座	8		17 (★16)	
	健康を知る基礎科目	心を知る	2			
		社会を知る		2		
		身体を知る	2	1 (★2)		
	健康を創る実践力形成科目	コミュニケーションリテラシー		2		
		数理・AIデータサイエンス	2	2		
		キャリアデザイン	8			
小計(①)			22	7 (★8)	17 (★16)	46
専門科目群	社会領域	心身の健康(病気・けがとその予防)	4		60	
	身体領域	健康・栄養学		2		
		健康とスポーツ				
		健康・保健・養護学				
	心理領域	心理の研究法				
		心理学の理論				
		心理学の実践				
心理職のための知識・技能						
小計(②)			4	2	60	66
研究科目群	研究領域		4			4
	卒業論文			2(4)		2
小計(③)			4	2(4)		6(8)
学科共通選択科目(④)			6			
卒業要件単位(①+②+③+④=合計124単位以上)			124単位以上			
(注) I 選択必修科目は、選択必修科目として指定した科目の中から選択し、必要な単位を修得する。 II (★)は、健康スポーツコースの修得単位とする。 III 学科共通選択科目は、全ての科目区分の選択科目から計6単位以上を修得する。 IV 教職科目群は、卒業要件単位には含まない。						

【2024】

科目群分類		授業科目の名称	担当教員	年次	◎必修 ◆選択必修	単位	学期
科学的思考の基礎科目	科学的思考講座(1)	探究への学び	姚 静雅	1		2	前期
		みずほ学	梅本 大介	1		2	前期
		プレゼミ I ≪養護≫	後藤 多知子, 森 千鶴, 近藤 由里子	1	◎	2	前期
		プレゼミ I ≪健スポ≫	天野 透, 鈴木 揚一, 山根 基	1	◎	2	前期
		プレゼミ I ≪心理≫	廣井 いずみ, 土屋 満知, 長岡 由紀子, 木戸 盛年	1	◎	2	前期
		プレゼミ I ≪健康≫	今澤 正彦, 上井 靖, 高瀬慎二, 刑部 純平, 姚 静雅	1	◎	2	前期
		プレゼミ II ≪養護≫	後藤 多知子, 森 千鶴, 近藤 由里子	1	◎	2	後期
		プレゼミ II ≪健スポ≫	天野 透, 鈴木 揚一, 山根 基	1	◎	2	後期
		プレゼミ II ≪心理≫	廣井 いずみ, 土屋 満知, 長岡 由紀子, 木戸 盛年	1	◎	2	後期
		プレゼミ II ≪健康≫	今澤 正彦, 上井 靖, 高瀬慎二, 刑部 純平, 姚 静雅	1	◎	2	後期
健康を知る基礎科目	心を知る(2)	人間関係と倫理学	松野 充貴	1		2	前後期
		人間と社会(連携)	高瀬 慎二	1		2	前期
		人間と美術	長谷川 玲	1		2	後期
		人間と音楽	丹羽 裕紀子	1		2	後期
		はじめての心理学	塚本 恵信	1		2	前期
		心理学概論	長岡 由紀子	1	◎	2	後期
		心理学入門	塚本 恵信	1		2	後期
	社会を知る(3)	日本国憲法	柴垣 直哉	1		2	前後期
		現代社会のマネジメント(連携)	水野 清文	1		2	前期
		社会で役立つ数学	深見 龍太郎	1		2	前期
生物調査法		川瀬 基弘	1		2	前期	
社会生活と法		柴垣 直哉	1	◆	2	後期	
現代社会の構造と問題		川村 潤子	1	◆	2	後期	
文章表現(国語)		樫内 久義	2		2	前後期	
ESD入門(連携)		曾我 幸代	2		2	前期(集中)	
共生文化論		菅沼 文乃	2		2	前期	
市民社会論(連携)		浅野 健, 鶴飼 哲矢	2	◆	2	後期	
身体を知る(4)	健康へのアプローチ	オムニバス	1		2	前期(集中)	
	笑いと健康(連携)	西田 元彦	1		2	後期	
	健康生活	近藤 由里子	1	◎	2	後期	
	健康と栄養	小久保 友貴	1		2	後期	
	野外活動・レクリエーション実践(バスケットボール)	鈴木 雅博	1		1	前後期	
	野外活動・レクリエーション実践(バドミントン)	天野 透, 刑部 純平	1	◆5科目中1科目 選択必修 (健スポは5科目中 2科目選択必修)	1	前後期	
	野外活動・レクリエーション実践(テニス)	刑部 純平	1		1	前後期	
	野外活動・レクリエーション実践(卓球)	刑部 純平	1		1	後期	
	野外活動・レクリエーション実践(サッカー)	山根 基	1		1	3クォーター4クォーター	
	ニュースポーツ実践	三浦 真理子	2		2	前期	
Yoga	山崎 淳子	2		2	後期		
健康を創る実践力形成科目	コミュニケーションリテラシー(5)	韓国語入門	金 由那	1		2	前後期
		中国語入門	虞 萍	1		2	前期
		英語コミュニケーション(入門)	橋本 直子	1	◆2科目中 1科目必修	2	前後期
		英語コミュニケーション(初級会話)	榎原 アイリン	1		2	前後期
		英語コミュニケーション(中級会話)	William (Bill) M. Jones, 榎原 アイリン	2		2	前後期
		英語コミュニケーション(上級会話)	榎原 アイリン	2		2	前期
	数理・AI・データサイエンス(6)	英語講読(基礎)	豊福 恵	2		2	前期
		英語講読(応用)	豊福 恵	3		2	前期
		情報リテラシー	姚 静雅	1	◎	2	前期
		はじめての情報活用	加藤 隆広	1		2	前期
データサイエンス(連携)		姚 静雅	1	◆2科目中 1科目必修	2	後期	
キャリアデザイン(7)	統計学入門	高瀬 慎二	1		2	後期	
	統計学概論	高瀬 慎二	2		2	前期	
	数理科学概論	深見 龍太郎	2		2	後期	
	リフレクティブラーニング(PDCA)	桑木 康宏, 各専任教員	全	◎	2	毎学期末	
	産業・組織と人間行動の理解	金井 篤子	1	◎	2	後期	
	キャリア発達の心理学	金井 篤子	2	◎	2	前期	
アントレプレナーシップ入門	金井 篤子	2		2	前期		
キャリアデザインの理論	金井 篤子	2	◎	2	後期		
キャリアデザイン実習	金井 篤子	3		2	前期		
キャリアデザイン演習	金井 篤子	3		2	後期		

【2024】

科目群分類		授業科目の名称	担当教員	年次	◎必修 ◆選択必修	単位	学期	
社会領域	心身の健康(病気・けがとその予防)(1)	教育原論	梅本 大介	1		2	前期	
		心身健康論	松原 達昭	1	◎	2	後期	
		行動科学概論	木戸 盛年	1	◎	2	後期	
		救急処置法	松田 直之	1		2	後期	
		レクリエーション概論・実践	浦野 忍	1		2	後期	
		健康実践Ⅰ<<養護>>	後藤 多知子, 森 千鶴, 近藤 由里子	2		2	前期	
		健康実践Ⅰ<<健スポ>>	天野 透, 鈴木 揚一, 山根 基	2		2	前期	
		健康実践Ⅰ<<心理>>	廣井 いずみ, 土屋 満知, 長岡 由紀子, 木戸 盛年	2		2	前期	
		健康実践Ⅰ<<健康>>	今澤 正彦, 上井 靖, 高瀬慎二, 刑部 純平, 姚 静雅	2		2	前期	
		健康実践Ⅱ<<養護>>	後藤 多知子, 森 千鶴, 近藤 由里子	2		2	後期	
		健康実践Ⅱ<<健スポ>>	天野 透, 鈴木 揚一, 山根 基	2		2	後期	
		健康実践Ⅱ<<心理>>	廣井 いずみ, 土屋 満知, 長岡 由紀子, 木戸 盛年	2		2	後期	
		健康実践Ⅱ<<健康>>	今澤 正彦, 上井 靖, 高瀬慎二, 刑部 純平, 姚 静雅	2		2	後期	
		公衆衛生学(疫学を含む。)	山本 尚範	2		2	後期	
		精神保健Ⅰ	平石 伏一	2		2	前期	
		精神保健Ⅱ	平石 伏一	2		2	後期	
		社会調査法	安藤 純子	2		2	前期	
		教育心理学	丸橋 唯郎	2		2	前期	
		教育相談(カウンセリングを含む。)	森 千鶴	2		2	前期	
		教育行政	梅本 大介, 鈴木 揚一	2		2	後期	
		教育史	梅本 大介	2		2	後期	
		社会心理学	高瀬 慎二	2		2	後期	
		健康・医療心理学	古井 由美子	3		2	前期	
		人間関係論	高瀬 慎二	3		2	前期	
		健康スポーツ科学	刑部 純平	3		2	前期	
専門科目群(S)	健康・栄養学(2)	解剖・生理学(人体の構造と機能及び疾病Ⅰ)	松原 達昭	1		2	前期	
		病気の成り立ち(人体の構造と機能及び疾病Ⅱ)	今澤 正彦	1		2	後期	
		栄養学入門(食品学を含む。)	宮澤 洋子	1		2	後期	
		健康栄養学	宮澤 洋子	2	◆	2	前期	
		ライフステージと病気の予防の栄養学	宮澤 洋子	2	◆	2	前期	
		生活習慣病論	今澤 正彦	2	◆	2	前期	
		健康管理学概論	今澤 正彦	3	◆	2	前期	
		栄養診断演習	宮澤 洋子	3		2	後期	
	身体領域	健康とスポーツ(3)	野外活動基礎実習	浦野 忍	1		1	前期
			体育実技(水泳)	田中 雅文	1		1	前後期
			体育実技(剣道)	白石 裕章	1		1	前期
			体育実技(球技Ⅱ)	長久保 健太郎	1		1	後期
			体育実技(器械運動)	鈴木 雅博	2		1	前後期
			体育実技(陸上)	天野 透	2		1	1クォータ
			体育実技(球技Ⅰ)	山根 基	2		1	1クォータ
			体育実技(ダンス)	石川 美樹	2		1	前期
			スポーツマネジメント	川西 司	2		2	前期
			運動生理学	山根 基	2		2	前期
			運動学(運動方法学を含む。)	水谷 未来	2		2	前期
			スポーツ社会学	佐々木 康	2		2	後期
			コーチング論	二瓶 雄樹	2		2	後期
			体育原理	佐々木 康	2		2	後期
			ジュニアスポーツ指導論	中野 貴博	2		2	後期
			健康スポーツ医学(運動療法を含む。)	今澤 正彦	2		2	後期
			トレーニング・フィットネス論	刑部 純平	2		2	後期
スポーツ指導実践			山根 基, 刑部 純平	3		2	前期	
運動生理学演習			山根 基	3		2	前期	
トレーニング・フィットネス演習			刑部 純平	3		2	前期	
体育実技(柔道)			榎本 好根	3		1	後期	
健康運動指導論			山根 基	3		2	後期	
運動プログラムの管理(運動療法(2)を含む。)			今澤 正彦	3		2	後期	
健康運動指導実習			刑部 純平	3		2	後期	
障害者スポーツ			大槻 洋也	4		2	前期	

【2024】

科目群分類		授業科目の名称	担当教員	年次	◎必修 ◆選択必修	単位	学期	
専門科目群 (S)	身体領域	学校保健	後藤 多知子	1		2	後期	
		看護学概論	舘 英津子	1		2	後期	
		基礎看護方法論Ⅰ	舘 英津子	2		2	前期	
		基礎看護方法論Ⅱ	舘 英津子	2		2	前期	
		薬理学概論	戸苅 彰史	2		2	後期	
		養護概説	後藤 多知子	2		2	前期	
		ライフサイクルと健康	竹中 香名子	2		2	後期	
		健康相談・健康相談活動Ⅰ	後藤 多知子	2		2	後期	
		健康相談・健康相談活動Ⅱ	後藤 多知子	2		2	後期	
		ヘルスアセスメントⅠ	舘 英津子, 近藤 由里子	2		2	後期	
		ヘルスアセスメントⅡ	舘 英津子, 近藤 由里子	2		2	後期	
		子どもの保健	近藤 由里子	2		2	後期	
		青少年期発達支援論	後藤 多知子	3		2	前期	
		高齢者の保健	山根 友絵	3		2	前期	
	健康教育・保健室経営演習	森 千鶴	3		2	後期		
	社会福祉概論	長谷中崇志	3		2	後期		
	心理領域	心理の研究法(5)	心理学統計法Ⅰ	木戸 盛年	1		2	後期
			心理学統計法Ⅱ	木戸 盛年	2		2	前期
			心理学研究法	川島 一晃	2		2	前期(集中)
			心理データ解析演習	塚本 恵信	2		2	後期
			心理学実験Ⅰ	木戸 盛年	2		2	前期
			心理学実験Ⅱ	高瀬 慎二	2		2	後期
		心理学の理論(6)	発達心理学	長岡 由紀子	2		2	前期
			比較心理学	富田 健太	2		2	前期
			心と健康の心理学	高瀬 慎二	2		2	前期
			知覚・認知心理学	高瀬 慎二	2		2	後期
			学習・言語心理学	木戸 盛年	2		2	後期
			社会・集団・家族心理学	三ツ村 美沙子	2		2	前期
			神経・生理心理学	風井 浩志	3		2	前期(集中)
			感情・人格心理学	廣井 いずみ	2		2	前期
スポーツ心理学			長岡 由紀子	3		2	前期	
心理学の実践(7)			臨床心理学概論	廣井 いずみ	2		2	前期
		精神疾患とその治療	土屋 満知	2		2	後期	
		教育・学校心理学	土屋 満知	2		2	後期	
		障害者・障害児心理学	土屋 満知	3		2	前期	
		青年心理学	廣井 いずみ	3		2	前期	
		心理学的支援法	長岡 由紀子	3		2	前期	
		司法・犯罪心理学	廣井 いずみ	3		2	後期	
		産業・組織心理学	松本 みゆき	3		2	後期	
福祉心理学		山崎 康一郎	3		2	後期(集中)		
心理職のための知識・技能(8)		心理的アセスメント	土屋 満知	3		2	前期	
		関係行政論	中野 一茂	3		2	前期(集中)	
		心理演習	廣井 いずみ, 土屋 満知	3		2	後期	
		公認心理師の職責	廣井 いずみ	3		2	後期	
研究科目群 (R)	研究領域(1)	健康科学演習	全常勤教員	3		4	通年	
		健への探究	全常勤教員	4	◎	4	通年	
	卒業論文(2)	卒業論文	全常勤教員	4	◆2科目中	4	通年	
		健康科学研究	全常勤教員	4	1科目必修	2	通年	

【2024】

科目群分類	授業科目の名称	担当教員	年次	◎必修 ◆選択必修	単位	学期	
教職科目群 (T) ※卒業単位に含めない。	教育の基礎的理解 (1)	教育職入門	天野 透	1	☆	2	後期
		特別支援教育概論	長谷中 崇志	2	☆	1	1クォータ
		教育課程論	梅本 大介	2	☆	2	後期
		教職教養 I	荒川 毅	3	☆	1	前期
		教職教養 II	荒川 毅	3	☆	1	後期
		教職論文・面談技法 I	梅本 大介, 天野 透, 後藤 多知子, 森千鶴, 近藤 由里子	3	☆	1	前期
		教職論文・面談技法 II	梅本 大介, 天野 透, 後藤 多知子, 森千鶴, 近藤 由里子	3	☆	1	前期
	道徳、総合的な学習 時間等の指導法、生 徒・教育相談(2)	保健体育科教育法 I	天野 透	2	☆	2	前期
		保健科教育法 I	森 千鶴	2	☆	2	前期
		進路指導の理論と実践	永田 勲	2	☆	1	2クォータ
		生徒指導の理論と実践	都筑 祐一	2	☆	2	後期
		道徳教育の理論と実践	梅本 大介	2	☆	2	前期
		特別活動及び総合的な学習の指導法	上井 靖	2	☆	2	前期
		道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の理論	上井 靖	2	☆	2	前期
		教育方法及び技術(情報通信技術の活用を含む)	丹下 洋吾	2	☆	2	後期
		保健体育科教育法 II	鈴木 揚一, 天野 透	2	☆	2	後期
		保健科教育法 II	森 千鶴	2	☆	2	後期
		保健体育科教育法 III	天野 透	3	☆	2	前期
		保健科教育法 III	木村 美来	3	☆	2	前期
	保健体育科教育法 IV	鈴木 揚一, 天野 透	3	☆	2	後期	
	保健科教育法 IV	木村 美来	3	☆	2	後期	
	教育実践に関する科目 (3)	教育実習事前・事後指導	梅本 大介	3	☆	1	前期(集中)
		教育実習 I	梅本 大介, 天野 透, 後藤 多知子, 近藤 由里子, 森 千鶴, (鈴木 揚一)	3	☆	2	前期(集中)
		教育実習 II	梅本 大介, 天野 透, 後藤 多知子, 近藤 由里子, 森 千鶴, (鈴木 揚一)	3	☆	2	前期(集中)
		養護実習事前・事後指導	後藤 多知子	4	☆	1	前期(集中)
		養護実習	後藤 多知子, 森 千鶴, 近藤 由里子	4	☆	2	前期(集中)
		教職実践演習(中・高)	梅本 大介, 天野 透	4	☆	2	後期
		教職実践演習(養護教諭)	森 千鶴, 後藤 多知子, 近藤 由里子, 舘 英津子	4	☆	2	後期
	養護に関する科目 (4)	学校救急処置(臨床実習を含む。)	近藤 由里子, 森 千鶴	3	☆	4	前期
		養護活動演習 I	後藤 多知子	3	☆	2	前期
		養護活動演習 II	舘 英津子, 森 千鶴	3	☆	2	後期
	【資格取得のための養成講座】						
		体力の測定と評価『集中講義』	山根 基	3	☆	-	集中
	健康づくりと運動プログラム『集中講義』	山根 基	3	☆	-	集中	
	医療管理学【夏季集中講座】		3	☆	-	集中	
	医療事務演習【夏季集中講座】		3	☆	-	集中	

◎:必修科目、◆:選択必修科目、☆:自由単位科目(卒業要件に含まれません。)

【愛知みずほ短期大学との単位互換科目】

愛知みずほ短期大学との単位互換科目の単位を修得した場合、卒業要件上、共通専門科目区分の単位として計算されます。

【愛知学長懇話会単位互換科目】

愛知学長懇話会における他大学との単位互換科目の単位を修得した場合は、その科目のシラバスを精査し、卒業要件上、適切な科目区分の単位として計算します。

令和5(2024)年度の入学者

開設授業科目・単位数および履修基準等

(卒業要件として修得を必要とする単位数等)

〔養護・保健、健康スポーツ、心理・カウンセリング、健康科学の各コース共通〕

1. 卒業の資格を得ようとする者は、次の履修基準に沿って124単位以上を修得しなければならない。

(基礎科目群の履修基準)

(科学的思考の基礎科目、健康を知る基礎科目、健康を創る実践力形成科目)

2. 基礎科目群の単位については、以下の区分に応じた授業科目の単位について、計46単位以上を修得すること。

(1) 科学的思考の基礎科目

- ・「科学的思考講座」につき、必修科目の単位8単位を含めて8単位以上

(2) 健康を知る基礎科目

- ・「心を知る」につき、必修科目の単位2単位を含めて2単位以上
- ・「社会を知る」につき、選択必修科目の単位2単位を含めて2単位以上
- ・「身体を知る」につき、必修科目の単位2単位及び選択必修科目の単位1単位を含めて3単位以上

(健康スポーツコースは、選択必修科目の単位2単位を含めて4単位以上)

(3) 健康を創る実践力形成科目

- ・「コミュニケーションリテラシー」につき、選択必修科目の単位2単位を含めて2単位以上
- ・「数理・AI・データサイエンス」につき、必修科目の単位2単位及び選択必修科目の単位2単位を含めて4単位以上
- ・「キャリアデザイン」につき、必修科目の単位8単位を含めて8単位以上

(4) 基礎科目群の選択科目につき、計17単位以上

(健康スポーツコースは、16単位以上)

(5) 連携開設科目

- ・科目名称の後に(連携)とある科目は、短期大学との連携開設科目である。

(専門科目群の履修基準)

(社会領域、身体領域、心理領域)

3. 専門科目群の単位については、以下の区分に応じた授業科目の単位について、計66単位以上を修得すること。

(1) 社会領域

「心身の健康(病気・けがとその予防)」につき、必修科目の単位4単位を含めて4単位以上

(2) 身体領域

・「健康・栄養学」につき、選択必修科目の単位2単位を含めて2単位以上

(3) 社会領域、身体領域及び心理領域の選択科目につき、計60単位以上

(研究科目群の履修基準)

4. 研究に関する科目群については、以下の区分に応じた授業科目の単位について、計6単位以上を修得すること。

(1) 「研究領域」につき、必修科目の単位4単位を含めて4単位以上

(2) 「卒業論文」につき、選択必修科目の単位4単位又は2単位

(学科共通選択科目の履修基準)

5. 共通選択科目については、全ての科目区分(教職科目群を除く)の選択科目から、計6単位以上を修得すること。

6. 上記に掲げるほか、授業科目の履修方法等に関する細目については、別に定めています。

「卒業論文・健康科学研究の評価基準」および「卒業論文作成要領」

(1) 卒業論文の評価基準

卒業論文の評価基準は、以下のとおりとする。

- a. 卒業論文ルーブリックにおける各評価項目の合計が 60 点以上となること（下記表 1 参照）。
- b. 卒業論文の形式は、卒業論文作成要領（別紙 1）に従うこと。

表 1. 卒業論文ルーブリック

評価項目	対応する力	重み	優れている	及第点付与を 検討できる	不可
論文要約	科学的思考力	20	<ul style="list-style-type: none"> ・序論、本論、結論が適切に要約されている。 ・研究の全体像が一読で把握できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・序論、本論、結論がおおむね適切に要約されている。 ・研究の全体像がおおむね把握できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要約自体に論理性がない。 ・研究概要がつかめない。 ・もしくは要約がない。
テーマ設定	発想力	20	<ul style="list-style-type: none"> ・独創的なテーマが設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね妥当なテーマが設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマらしいものが見られない。 ・論理的な展開も見られない。
記述内容	表現力	20	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 者が読んで詳細まで理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 者が読んでおおむね理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読んでいておおよそ理解できない。
情報の活用	情報収集・分析力	10	<ul style="list-style-type: none"> ・情報は確認できる事実が記述されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報はほぼ確認できであろう事実が記述されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が曖昧もしくは誤りがある。
考察・結論	問題解決力	20	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容から根拠や理由を提示して結論や自説を述べている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容から間接的にでも根拠や理由を提示して結論や自説を述べている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結論や自説を主張する根拠や理由が述べられていない。
引用文献	教養力・判断力	10	<ul style="list-style-type: none"> ・論文と文献の対応、表記方法が適切である。 ・引用された文献、資料が文末にすべて書き出されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文内の引用方法、引用箇所と文献の対応、表記方法が概ね適切である。 ・引用された文献、資料が文末に論文成立に支障のない程度に書かれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文の引用方法、引用箇所の文献の対応ができていない。
得点率			100%	60%	0%

(2) 健康科学研究の評価基準

健康科学研究の評価基準は、以下のとおりとする。

- a. AMC 学修成果ルーブリックにおける総合的活用コース別における基準「満足できる (DP 達成)」を満たすこと (下記表 2 参照)。
- b. 在学期間中において各自が積み上げた学修の成果をまとめた制作物、あるいは卒業後に健康な社会の実現に貢献するために活用することができる制作物等が含まれていること。
- c. 卒業制作物とともに報告書を提出すること。
- d. 報告書の形式は、卒業論文の場合と同様とするが、本文の文字数は 1,500 字以上とすること。
- e. 報告書には、テーマ (題目) を表紙に記載し (別紙 3)、本文において制作物の内容を適切に説明すること。

表 2. AMC 学修成果ルーブリック 総合的活用のコース別基準

基準		尺度		
		十分に到達している	満足できる (DP 達成)	努力を要する
養護・保健	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	心身と疾病に関する基礎知識を活かし実践活動へと発展させることができる。リーダーの役割を担う力を有し、周囲の人々の身体と心の健康づくりをサポートができる。	心身と疾病に関する基礎知識を有し、社会的に身体と心の健康づくりのサポートができる。	心身と疾病に関する基礎知識を有しているが、社会的に身体と心の健康づくりをサポートするにはまだ不十分である。
健康スポーツ	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる	運動・スポーツ及び健康に関する知識・技能を活用できる実践力があり、リーダー的な存在として健康づくりをサポートできる。	運動・スポーツ及び健康に関する知識・技能を有し、総合的に健康づくりをサポートできる。	運動・スポーツ及び健康に関する知識・技能を有しているが、実践力が十分になく限定的な健康づくりをサポートできる。
心理・カウンセリング	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	「心」についての知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる多大な実践力を持っている。それらの知見を活用して、心理学の観点から課題を捉え直し、他者への働きかけにより、健康な社会の実現のために貢献することができる。	「心」についての知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持っている。それらの知見を活用して心理学の観点から課題を捉え直すことで、自ら行動し健康な社会の実現のために貢献することができる。	「心」についての知識を部分的に修得しているが、心の健康を育成・発展させる実践力はまだ育っていない。したがって、健康な社会の実現のために心理学の知見を活用して課題を捉え直す力は不十分である。
健康科学	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	社会を多視点から科学的に捉え、健康な社会を理解し、科学的根拠を尊重し、健康な社会を目指すことができる。	社会を多視点から科学的に捉え、多様な価値観の存在を受容し、健康な社会の実現に向けて、科学的根拠を基に積極的に寄与することができる。	社会を多視点から捉え、健康な社会をイメージし、その実現を目指すことができる。

別紙 1

卒業論文作成要領

1. 使用言語

日本語（但し卒業研究担当教員が認めた場合は英語も可）

2. 表紙

別紙フォーマット（別紙 2）を使用すること。

3. 本文

(1) 使用アプリケーション：ワード（Word）

(2) 用紙サイズ：A4（横書き）

(3) 文字数と行数：32 字×25 行

(4) 余白（上下左右のマージン）：上：35mm、左・右・下：各 30mm

(5) 字体：見出しは MS ゴシック、本文は MS 明朝（英数字 century）とする。

(6) 引用・転載した場合は、その旨と出典を全て明記すること。

(7) 図・表には通し番号とタイトルを付すこと。

(8) ページ数

調査系研究：おおよそ 25 頁以上（要旨・目次を含まない）

文献系研究：おおよそ 25 頁以上（要旨・目次を含まない）

4. 卒論要旨集

(1) 要旨の上段には、以下の 3 点をもらさず記載し、その下に要旨本文を記載する。

① 題目（和文）（題目（英文）） ② 学籍番号・氏名 ③ 指導教員名

(2) 全体の文字数を 800 字以上 2,000 字以下とし、2 ページ以内におさめること。

(3) 図表の挿入も可とする。

附 記

1 この要領は、令和 6 年度から実施し、令和 6 年度入学生より適用する。

2 この要領の施行に伴い、平成 28 年 4 月 1 日制定の「愛知みずほ大学卒業論文取扱要領」は、廃止する。

年度

人間科学部心身健康学科
卒業研究

題目

--

指導教員名 ○○ ○○先生

氏名		学籍番号	
----	--	------	--

年度

人間科学部心身健康学科
健康科学研究

題 目

--

指導教員名 ○○ ○○先生

氏名		学籍番号	
----	--	------	--

実務経験のある教員による授業科目の配置

実務経験のある教員が担当する科目単位数

	人間科学部
	心身健康科学科
教養科目	3
専門科目	45
合計	48
設置基準上の標準単位数	124

実務経験のある教員の教育上の業績及び職務上の実績等

氏名	実務経験の内容	実務経験をどう授業どのように活かしますか
天野 透	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県立高等学校の保健体育教諭として38年間勤務し、保健主事、学年主任、生徒指導主事を歴任した。また、その間、少年自然の家や県警本部に出向し、学校教育と社会教育との連携や青少年の健全育成に携わった。 管理職としては、県立高等学校の教頭として4年間、校長として7年間勤務した。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の実技に関しては保健体育教諭として授業を行ってきた経験を指導に生かしており、特に陸上競技は自分が専門に取り組んできた種目でもあるため、競技者の目線で指導するよう努めている。 教職に関しては、高等学校での主任や管理職の経験から、学校現場における実際の状況や喫緊の課題について取り上げている。
今澤 正彦	日本外科学会認定医、日本外科学会認定登録医厚生労働省麻酔科標榜医、日本医師会認定産業医として、愛知学院大学歯学部附属病院、厚生連東濃厚生病院、聖霊病院等にて診療を行ってきた。	医学の基礎となる知識と同時に、人の健康科学を考えるための知識を提供できる。学生が将来、社会で活躍するためのプロフェッショナリズムを形成するために医学の観点から理論と実践を踏まえて授業で学べることが、学びの意欲を引き出すには必要である。私は出来る限り、自らの医師としての実務経験から、分かりやすいようなエピソードを授業の中に盛り込んで話している
後藤 多知子	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県公立中学校養護教諭勤務（正規採用）9年間、公立小学校養護教諭勤務3ヶ月（療養休暇補充常勤講師） 豊田市立中学校心の相談員2年間 	<ul style="list-style-type: none"> 経験した事例（救急処置・健康相談・保健指導）を紹介したり、健康観察、健康診断、環境衛生検査、衛生管理、保健室経営などに必要な知識や技術の修得に経験を生かしている。 現職教員や自治体職員等の人脈を生かし、授業講師に招いたり、学生を学校保健室ボランティアとして派遣している。
近藤 由里子	独立行政 法人国立病院機構グループの療養所、病院、看護学校に38年勤務 <ul style="list-style-type: none"> 看護師として9年6ヶ月（循環器、呼吸器外科、手術室、結核） 附属看護学校教員として7年6ヶ月（2校） 看護師長として21年（5病院 手術室、整形外科、呼吸器内科・外科、緩和ケア、教育専任） 	看護師としての臨床経験を活かし、養護教諭として必要である基礎看護技術について指導する。（知識、技術、態度の3つを統合）また、学生が、自身の健康についての意識を高め、健康生活のための方法、内容を理解し、疾病予防、健康増進のための行動がとれるように支援する。

氏名	実務経験の内容	実務経験をどう授業どのように活かしますか
鈴木 揚一	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県立高校教諭 23 年 (保健主事、学年主任、総務主任、生徒指導主事) ・県教育委員会 4 年 (安全担当) ・県立高校教頭 7 年 (1 校) ・県立高校校長 4 年 (1 校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場(学校管理下・外)で発生する殆どの事件・事故を様々な立場から経験しており、危機管理を主として実際の対応方法等を授業に活かしている。(全科目) ・教員採用選考試験の合格を目標に、指導書「保健体育教師を目指して」を作成し、授業で活用している。(教育職入門、保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ)
舘 英津子	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師 大学病院などで循環器、CCU、腎臓内科などを中心とした内科病棟看護師として計 5 年間の臨床経験を積んだ。 ・保健師 人口約 10 万の保健センターにて非常勤保健師として健診業務などに携わった。 	<p>学生は、年若く様々な経験が少ないためにテキスト等書いている抽象的な表現を具体的に想像することが出来なかったり、数少ない事例の印象にとらわれていたりすることが多い。</p> <p>そのため実際の医療現場や保健所などでケアする側として接した人やその家族を特定されない形で事例として紹介し、身近に感じてもらいながら学生の中のイメージを豊かにするようにしている。</p> <p>具体的には、けがや疾患、その処置方法、対象者の苦痛(不安・悩みなどを含む)の様子、苦痛軽減の方法や接し方などを講義や演習内で説明やデモンストレーションを示すときに生かしている。</p>
松原 達昭	<p>認定内科医、循環器専門医、糖尿病専門医、高血圧専門医として、名古屋大学医学部附属病院、愛知学院大学歯学部附属病院の他、公的総合病院や民間クリニックで診療を行ってきた。また、認定産業医として、企業や大学の産業医、学校医を務めた。</p>	<p>実務経験の内容に示した経験を活かし、心や体の健康等に関して、具体的な症例を交えながら解説を行い、授業を進めている。</p>
森 千鶴	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市立小学校 養護教諭として 25 年間勤務 ・名古屋市教育委員会 指導主事として 4 年間勤務 ・名古屋市立特別支援学校 教頭として 4 年間勤務 ・名古屋市立小学校 校長として 5 年間勤務 ・春日井市立小学校 スクールカウンセラーとして 1 年間勤務 	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭としての 25 年間の経験から、「養護教諭の職務の特質」や「保健室の機能」を生かした保健科教育の指導に当たっている。 ・養護教諭、管理職、スクールカウンセラーを経験した視点から、学校現場の具体的な場面や事例をもとに、養護教諭や学級担任として教育相談を身近に捉えることができるよう指導している。 ・教育委員会や学校現場での管理職の経験を生かし、学校組織やその一員としての在り方や保護者、地域との連携のし方について、具体的な学びにつながるよう指導している。

実務経験のある教員による授業科目一覧

科目名	単位	年次	開講学期	担当教員
野外活動・レクリエーション実践(バドミントン)	1	1	前期	天野 透
健康生活	2	1	後期	近藤 由里子
心身健康論	2	2	後期	松原 達昭
解剖・生理学(人体の構造と機能及び疾病Ⅰ)	2	1	前期	松原 達昭
病気の成り立ち(人体の構造と機能及び疾病Ⅱ)	2	1	後期	今澤 正彦
学校保健	2	1	後期	後藤 多知子
ヘルスアセスメント	2	2	前期	館 英津子 近藤 由里子
養護概説	2	2	前期	後藤 多知子
看護学概論	2	1	前期	館 英津子
基礎看護方法論	2	2	前期	館 英津子
健康相談・健康相談活動	2	2	後期	後藤 多知子
養護活動実習	2	3	通年	後藤 多知子 館 英津子 森 千鶴
健康教育・保健室経営演習	2	3	後期	森 千鶴
健康管理学概論	2	3	前期	今澤 正彦
生活習慣病論	2	3	前期	今澤 正彦
体育実技(陸上)	1	2	第1クォータ	天野 透
健康スポーツ医学(運動療法を含む。)	2	3	後期	今澤 正彦
教育職入門	2	1	後期	天野 透
保健体育科教育法Ⅰ	2	2	前期	天野 透
保健体育科教育法Ⅱ	2	2	後期	鈴木 揚一
保健体育科教育法Ⅲ	2	3	前期	鈴木 揚一
保健体育科教育法Ⅳ	2	3	後期	鈴木 揚一
教育相談(カウンセリングを含む)	2	2	前期	森 千鶴
保健科教育法Ⅰ	2	2	前期	森 千鶴
保健科教育法Ⅱ	2	3	後期	森 千鶴
青少年期発達支援論	2	3	前期	後藤 多知子
学校救急処置(臨床実習を含む。)	2	3	前期	近藤 由里子 森 千鶴
運動プログラムの管理(運動療法(2)を含む。)	2	3	後期	今澤 正彦
子どもの保健	2	2	後期	近藤 由里子

愛知学長懇話会単位互換事業

本学は愛知学長懇話会に加盟しており、愛知県内にある他大学、短期大学部の授業を無料で履修することができ、修得した単位は本学における卒業の単位として認定します。

1. 愛知学長懇話会とは

愛知学長懇話会は、愛知県下の国公立大学の枠を超えて連携し、学術の向上発展に資するとともに、新しい時代と社会に生き、貢献できる人間を養成する大学人として集い会員相互の親睦を図り、愛知の文化発展の基礎エネルギーを蓄積し、発信することを目的として、平成 5 年 10 月に設立されました。

現在では、愛知県内すべての 4 年制大学が加盟しています。

2. 愛知学長懇話会による単位互換事業とは

愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟している大学に所属する学生（系列の併設短期大学の学生を含む。）は、他の大学で開講される様々な科目を履修することができ、かつ、履修した科目が在籍する大学の単位として認められる制度です。

単位互換向けに開放される科目の受講料は無料ですが、科目によっては実験・実習・研修等の実費が必要となる場合があります。

なお、単位互換向けに開放される科目の受講は、科目の開放を行っている大学で開講されるため、その大学まで通学する必要があります。

3. 愛知学長懇話会による単位互換を履修するには

本学は愛知学長懇話会に加盟しており、愛知県内にある他大学、短期大学部の授業を無料で履修することができます。

他の大学で開講される科目を履修したい学生は、所定の「単位互換履修生（特別聴講学生）」出願票を教務・学生室へ提出してください。

本事業の履修登録は、4 月と 9 月の年 2 回、あり、手続き期間等は学内掲示板へ掲示します。

具体的な授業科目のシラバスについては、愛知学長懇話会のホームページ (<https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp/>) で確認してください。

提出された出願票は、本学から愛知学長懇話会事務局に送られ、その後、愛知学長懇話会事務局より開放科目を提供する大学に通知されます。ただし、開放科目を提供する大学の状況によっては履修できない場合もあります。申し込まれた科目の受講可否が通知されるについては、教務・学生室に連絡があり、その後申込者に通知します。受講可否の通知前であっても開放科目を提供する大学にて授業が開始される場合、その期間は「仮受講」が可能です。

放送大学との単位互換事業

本学では、放送大学との単位互換協定に基づく、単位互換を実施しています。この制度は、本学の学生が放送大学の特別聴講学生として入学し、授業を履修し修得した単位を、本学の単位として修得したものとみなすことができるというものです。本学のカリキュラムにはない幅広い知識の修得のためにも、是非この制度を利用してください。

なお、以下に本制度の概要及び手続き等を説明しますので、履修を希望する学生は必要な手続きを行ってください。

1. 放送大学の概要

放送大学はテレビ、ラジオ又はインターネットによって学ぶことのできる通信制大学で、仕事や家事で忙しい方も、自分のペースで無理なく学ぶことができるのが最大の特徴です。

これまで130万人を超える方々が学び、現在の在籍者数は、全国で8万人以上、日本の生涯学習の中核的な役割を担っており、取得できる学位は、学士は勿論、修士、博士の学位取得も可能です。

2. 放送大学の授業概要

放送大学は、2学期制（第1学期4～9月、第2学期10～3月）になっており、各学期15週にわたって、15回（週1回、1回45分）、放送教材と印刷教材により授業が行われます。8週目の放送教材視聴が終わった段階で通信指導（レポート等）を提出し、合格した者は15週の視聴終了後、単位認定試験を受けることになります。

3. 出願及び履修登録方法

本学では、放送大学との単位互換協定を結んでいるため、本学より特別聴講学生として放送大学に出願します。

出願は、2月と9月の年2回、あり、手続き期間等は学内掲示板へ掲示します。履修登録は出願時に行うため、あらかじめ放送大学ホームページ (<http://www.ouj.ac.jp/>) でシラバスを確認してください。

4. 授講方法

特別聴講学生は、放送大学に登録した科目を「愛知学習センター」に通知し、テレビ科目はDVD、ビデオテープ、ラジオ科目はCDを視聴して学習することになります。

なお、学内及び自宅においてインターネット(テレビ科目の一部を除く。)による視聴のほか、CATV（ケーブルテレビ）、BSデジタル放送を視聴し学習することもできます。

瀬木学園図書館にBSデジタル放送受講設備がありますので活用してください。なお、自宅

にて、CATV（ケーブルテレビ）、BSデジタル放送を視聴する場合、各自ケーブルテレビの契約やBSアンテナ及びBSデジタルチューナーを各自設備する必要があります。

5. 学費

1科目（2単位）あたり11,000円です。この単位互換制度を利用すると、放送大学の入学金は免除されます。

6. 愛知学習センター

本学から特別聴講学生に申し込んだ場合、通常、愛知学習センターに所属することとなります。

愛知学習センターでは単位認定試験の実施会場となります。また、学習相談を受ける、DVD、CD、図書の閲覧、貸し出し等のサービスを受けることもできますので、特別聴講学生に申し込んだ場合は、是非、活用してください。

愛知学習センター 住所

〒466-0825

愛知県名古屋市昭和区八事本町101-2（中京大学センタービル4階）

電話番号 052-831-1771 FAX 052-831-1777

愛知みずほ短期大学単位互換提供科目一覧

【前期】

区分	教科名	単位数	担当	開講曜日・時間など	教科書
専門教育 科目	クリエイティブデザイン	2	鈴木安	金曜日・3限	なし
	食文化論	2	水野	木曜日・2限	なし
	調理実習 I	1	高木	火曜日・4・5限	なし 別途 実習費 が必要

【後期】

区分	教科名	単位数	担当	開講曜日・時間など	教科書
専門教育 科目	女性学	2	矢野	金曜日・2限	必要 1,320円
	子ども家庭福祉	2	長谷中	火曜日・4限	必要 2,420円
	調理実習 II	1	高木	火曜日・4・5限	なし 別途 実習費 が必要

※受講料は無料ですが、シラバスの内容を確認し、教科書が必要な科目は、各自で揃えてください。

※受講希望者は、講義開始 1 週間以内に事務局(教務・学生室)で申込み手続きをしてください。

愛知みずほ短期大学との連携開設科目一覧

連携開設科目とは自身以外の他の大学で開設された授業科目を自身の大学で開設したものとみなすことができる教育上の特例措置で、本学では愛知みずほ短期大学と提携し令和4年度にあつては以下の授業科目を連携開設科目として開設します。

開設母体	教科名	単位数	開講曜日・時間など
大学	人間と社会	2	前期・金曜日・5限
	現代社会のマネジメント	2	前期・木曜日・1限
短期大学	データサイエンス	2	(A) 後期・月曜日・5限 (B) 後期・火曜日・5限
	笑い与健康	2	後期・木曜日・4・5限
	市民社会論	2	後期・火曜日・1限
	ESD 入門	2	前期・夏季集中講義

【連携開設科目の履修登録方法等について】

連携開設科目は単位互換科目と異なり、履修システムより登録を行う事ができます。

また、GPA の計算対象科目として取り扱われると共に、CAP（履修上限単位）制の対象科目としても計算されます。

【連携開設科目における遅刻・欠席・公欠の取り扱いについて】

連携開設科目における遅刻・欠席・公欠の取り扱いは、開設母体となる大学の規則に従い判断されます。

短期大学では遅刻・早退は全て欠席となり、原則、公欠もありませんので、ご承知おきください。

※ 連携開設科目は大学設置基準第 28 条～第 30 条かけて規定されています。

※ 単位互換科目（他の大学にて修得した単位を自身の大学での履修単位とする）と異なるもので、単位互換等について定められた卒業要件に占める修得単位の上限 60 単位には含まれません。

※ 連携開設科目にて修得できる上限は 30 単位です。

愛知みずほ大学履修規程

第1章 総則

(目的)

- 第1条 この規程は、愛知みずほ大学学則（以下「学則」という。）第17条第4項の規定により、教育課程の履修等に関して、必要な事項を定めるものとする。
- 2 この規程に定めるもののほか、教員免許状の取得に係る所要資格およびその他資格等について他に特別の定めがある場合は、その定めるところによる。

第2章 履修コース

(コースの設置)

- 第2条 養成する人材像を明確に示し、そのための体系的な学修を確実に行うことを目的に、愛知みずほ大学（以下「本学」という。）の人間科学部心身健康科学科に次のコースを置く。

心身健康科学科 養護・保健コース
健康スポーツコース
心理・カウンセリングコース
健康科学コース

(コースの選択)

- 第3条 本学の人間科学部心身健康科学科に入学を許可された者は、2年次に前条に定めるコースのうち、いずれかの1コースを決定する。
- 2 2年次以降のコース変更については、所定の期日までにコース変更願を提出した者に1回に限り、学長が許可することがある。

第3章 卒業要件・履修登録等

(卒業要件)

- 第4条 本学を卒業するためには、4年間以上にわたり在学し、学則のほかにこの規程に規定するところに従い、所定の単位を修得しなければならない。

(履修基準)

- 第5条 各科目の履修基準は別表1のとおりとする。

(履修登録)

- 第6条 授業科目を履修し単位を修得するためには、毎学期のはじめ、所定の期間に履修科目を登録しなければならない。登録をしていない科目を履修すること及び受験することはできない。
- 2 病気、その他やむをえない理由により所定の期間に履修登録できない場合は、直ちに届け出て指示を受けなければならない。ただし、学期開講日数の3

分の1を経過した科目の履修登録は認めない。

- 3 履修科目は、定められた期間内に、所定の手続により、履修登録を修正又は取消することができる。修正期間以外は、原則として履修登録の修正及び取消は認めない。

(履修科目欠席の取扱)

第7条 履修登録を行った科目については、授業に出席しなければならない。

- 2 病気、その他やむをえない理由により授業科目を欠席するときは、所定の手続きに従い届け出なければならない。
- 3 次の各号の一に該当する事由により授業科目を欠席する場合は、これを欠席として扱わない。
 - 一 災害又は交通機関のストライキや事故などにより、通学不能の場合
 - 二 学校保健安全法施行規則第18条、第19条の規定により出席停止の措置を受けた場合又はこれに類する措置を大学が指示した場合
 - 三 忌引として別に定める日数
 - 四 特別な事情により大学が出席不能と判断した場合

(履修の制限)

第8条 既に単位を修得した科目は、履修することができない。

- 2 上級学年配当科目は、履修することができない。
- 3 同一時限に2つ以上の科目を重複して履修することはできない。
- 4 科目により、履修人数を制限することがある。
- 5 各授業担当者がシラバスに明記した理由に基づき、履修を制限することがある。
- 6 学生が1年間に履修登録できる科目の総単位数は、1年次にあつては40単位、2年次以降にあつては44単位を上限とする。ただし、成績優秀な学生については、48単位まで認めるものとする。なお、卒業要件に含まない科目の履修や3年次編入学生の履修にあつては、この限りでない。

第4章 授業

(授業時間数)

第9条 授業時間数は、1時限を90分とし、学則第21条に定める単位の算定に当たってはこれを2時間とする。

(授業時間帯)

第10条 授業時間帯は次のように定める。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

(授業の変更)

第11条 年度途中、やむをえない事情で、授業の日程や教室を変更する場合がある。変更についてはその都度掲示する。

(休講)

第12条 やむをえない事情により授業が行えない場合は休講とする。また、自然災害への対応については、「愛知みずほ大学・愛知みずほ短期大学 自然災害の予防等に関する対応指針」によるものとする。

第5章 試験及び単位の認定

(試験の種類)

第13条 試験の種類は、定期試験、追試験、再試験とする。

(試験の方法)

第14条 試験の方法は、筆記試験、実技試験、レポート試験ならびにその他の方法によるものとする。試験の方法は各授業担当者が定める。

(試験の実施)

第15条 定期試験、追試験、再試験における筆記試験及び実技試験は次のとおり実施する。

- 一 試験科目、時間等については、事前に掲示により通知する。
- 二 受験に際しては学生証を机上に提示しなければならない。学生証を携帯していない場合は、仮受験票をもって代えることができる。
- 三 試験開始後30分を経過した後は試験場への入室は認めない。また試験開始後30分以内は退室を認めない。なお、中途退室する場合も解答用紙は必ず提出しなければならない。

(レポート試験の方法)

第16条 定期試験、追試験、再試験におけるレポート試験の提出は、特別な指示がない限り、指定された期日、方法で提出しなければならない。

(試験受験資格)

第17条 次の各号に該当する場合は、その科目の受験資格がないものとする。

- 一 履修登録をしていない場合
- 二 学則第38条に定める学生納付金を納めていない場合
ただし、やむを得ない事情によると判断され許可された場合はこの限りではない。

(定期試験)

第18条 定期試験は前期末試験ならびに後期末試験とし、期間を定めて実施する。

- 2 集中講義科目の定期試験は別に期日を定めて実施する。

(追試験)

第19条 前条の定期試験の当日に次の事由により受験できなかった場合は、学長による決定に基づき当該科目の追試験を実施する。

- 2 前項の追試験には、レポートによる試験を含める。

事由	証明書
災害等	被災証明書
交通事故	事故証明書
病気・けが	診断書あるいは入院証明書
第2親等以内の葬儀(死亡の日から7日以内)	会葬御礼等
その他大学が認める事由	事由書

(追試験手続)

第20条 追試験受験希望者は、当該科目の試験実施日前後各3日以内に証明書を添えて願出しなければならない。

(再試験)

第21条 定期試験の結果、不合格となった科目のうち、授業担当者によって該当者と認められた者については、1回に限り、再試験を行うことがある。再試験を実施する場合は、所定の期日までに所定の様式により再試験を願出たときに、これを許可する。

2 再試験を追試験に相当する理由で受験できなかった場合、再試験の追試験は行わない。

(再試験手続)

第22条 再試験を許可された者は、再試験料1,000円を期日までに納めなければならない。

(不正行為)

第23条 試験において次のいずれかに該当する行為を行った場合は、不正行為とみなす。

なお、第一号から第五号の場合、双方の学生を不正行為被疑者とみなす。

- 一 他の学生との答案の見せ合い
- 二 他の学生の答案の覗き見及びその幫助
- 三 他の学生との答案の交換
- 四 他の学生との話し合い
- 五 他の学生との物品(筆記用具を含む)の貸し借り(試験監督が許可した場合を除く)
- 六 カンニングペーパーの所持及び使用
- 七 持ち込みを許可していない物品(教科書、プリント、ノート、参考書、辞書、携帯電話、スマートフォン、パソコン、電子辞書、タブレット、ウェアラブルデバイス、その他情報通信機器等)の使用又は机上等へ置くこと
- 八 所持品や机上等へ事前に書き込みとその使用
- 九 替え玉受験
- 十 答案への偽名記入、又は故意による答案無記名
- 十一 試験監督の指示に従わない行為
- 十二 その他、公正な試験の実施を阻害されると認められる行為

(単位の修得)

第24条 学則第22条に定める単位の授与に当たっては、次の各号に該当する場合に修得できるものとする。

- 一 総授業時間数の3分の2以上出席している場合
- 二 定期試験又は追試験、再試験において合格と判定された場合

(成績の評価)

第25条 成績の評価は、学則第23条の規定に基づくものとする。

(成績評価の基準)

第26条 学則第23条に定める履修成績の評価は、次のように表す。合格の成績には、それぞれの授業科目に関し、所定の単位を与えるが、不合格の成績には単位を与えない。

- 2 成績評価は、100点法により採点され、次の段階区分による評価基準に基づき、行われる。秀・優・良及び可を合格とし、不可及び時不を不合格とする。

判定	評語	評点	評価基準
合格	秀	100～90点	目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を収めている。
	優	89～80点	目標を十分に達成し、優れた成績を収めている。
	良	79～70点	目標を概ね達成している。
	可	69～60点	目標を最低限達成している。
不合格	不可	59～0点	目標を達成していない。
	時不	—	授業の出席が総授業時間数の3分の2に満たない。

- 3 追試験の場合は原則80点満点での成績評価とする。なお、公欠・忌引による追試験の場合を除く。再試験は60点満点での成績評価とする。

(総合成績評価)

第27条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「G P」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「G P A」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

成績		G P
秀	100～90点	4.0
優	89～80点	3.0
良	79～70点	2.0
可	69～60点	1.0
不可	59点以下	0.0
時不	—	0.0

- 2 単位認定が保留となった授業科目のG Pは、0点とする。
- 3 認定又は合否により判定する授業科目については算出の対象外とする。
- 4 G P Aの算出は、次のとおりとする。
$$G P A = (\text{授業科目で得たG P} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} \div (\text{履修登録})$$

したG Pが付与される授業科目の単位数の総和)

- 5 G P Aは、算出された数値の小数点第3位以下を切捨てて表記する。
- 6 成績証明書には、G P Aは明記しない。
- 7 G P Aは、成績の分布状況及び学生個人の学修状況の把握を通じて、履修登録の年間上限数の緩和、奨学金受給の判定基準及び退学勧告を含む学修指導ならびに就職活動及び海外留学支援において活用する。

第6章 その他

(改廃)

第28条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則 (第23条、別表1改正関係)

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則 (第28条、別表1改正関係)

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則 (第12条、第28条、別表1改正関係)

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則 (別表1改正関係)

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則 (第2条、第3条、第5条、第12条改正関係)

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

- 2 令和6年3月31日に在学する者(以下「在学者」という。)及び令和6年4月1日以降に在学者の属する年次に入学又は復籍する者に係るコースの選択、履修基準及びコース必修は、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表1 (第5条関係)

授業科目、単位数及び履修基準

科目群分類		授業科目の名称	単位数	履修基準 (必修: ◎, 選択必修: ◆)		
基礎科目群	科学的思考の基礎科目	探究への学び	2			
		みずほ学	2			
		科学的思考講座	2	◎		
		プレゼミ I	2	◎		
		プレゼミ II	2	◎		
		ロジカルシンキング (思考)	2	◎		
			ロジカルプレゼンテーション	2	◎	
	健康を知る基礎科目	心を知る	人間関係と倫理学	2		
			人間と社会 (連携)	2		
			人間と美術	2		
			人間と音楽	2		
			はじめての心理学	2		
			心理学概論	2	◎	
			心理学入門	2		
		社会を知る	日本国憲法	2		
			現代社会のマネジメント (連携)	2		
			社会で役立つ数学	2		
			生物調査法	2		
			社会生活と法	2	◆	◆ : 3科目中1科目選択必修
			現代社会の構造と問題	2	◆	
文章表現 (国語)			2			
ESD 入門 (連携)	2					
共生文化論	2					
市民社会論 (連携)	2	◆				
身体を知る	健康へのアプローチ	2				
	笑い与健康 (連携)	2				
	健康生活	2	◎			
	健康と栄養	2				
	野外活動・レクリエーション実践 (バスケットボール)	1	◆	◆ : 5科目中1科目選択必修 ただし、健康スポーツコースは、5科目中2科目選択必修		
	野外活動・レクリエーション実践 (バドミントン)	1	◆			
	野外活動・レクリエーション実践 (テニス)	1	◆			
	野外活動・レクリエーション実践 (卓球)	1	◆			
野外活動・レクリエーション実践 (サッカー)	1	◆				
ニューススポーツ実践	2					
Yoga	2					
健康を創る実践力形成科目	コミュニケーションリテラシー	韓国語入門	2			
		中国語入門	2			
		英語コミュニケーション (入門)	2	◆	◆ : 2科目中1科目選択必修	
		英語コミュニケーション (初級会話)	2	◆		
		英語コミュニケーション (中級会話)	2			
		英語コミュニケーション (上級会話)	2			
		英語講読 (基礎)	2			
	英語講読 (応用)	2				
	数理・AI・データサイエンス	情報リテラシー	2	◎		
		はじめての情報活用	2			
		データサイエンス (連携)	2	◆	◆ : 2科目中1科目選択必修	
		統計学入門	2	◆		
		統計学概論	2			
	数理科学概論	2				
	キャリアデザイン	リフレクティブラーニング (PDCA)	2	◎		
		産業・組織と人間行動の理解	2	◎		
キャリア発達の心理学		2	◎			
アントレプレナーシップ入門		2				
キャリアデザインの理論		2	◎			
キャリアデザイン実習		2				
キャリアデザイン演習		2				

科目群分類		授業科目の名称	単位数	履修基準（必修：◎，選択必修：◆）		
専門科目群	社会領域	教育原論	2			
		心身健康論	2	◎		
		行動科学概論	2	◎		
		救急処置法	2			
		レクリエーション概論・実践	2			
		健康実践Ⅰ《養護》	2			
		健康実践Ⅰ《健スポ》	2			
		健康実践Ⅰ《心理》	2			
		健康実践Ⅰ《健康》	2			
		健康実践Ⅱ《養護》	2			
		健康実践Ⅱ《健スポ》	2			
		健康実践Ⅱ《心理》	2			
		健康実践Ⅱ《健康》	2			
		公衆衛生学（疫学を含む。）	2			
		精神保健Ⅰ	2			
		精神保健Ⅱ	2			
		社会調査法	2			
		教育心理学	2			
		教育相談（カウンセリングを含む。）	2			
		教育行政	2			
		教育史	2			
	社会心理学	2				
	健康・医療心理学	2				
	人間関係論	2				
	健康スポーツ科学	2				
	身体領域	健康・栄養学	解剖・生理学（人体の構造と機能及び疾病Ⅰ）	2		◆：3科目中1科目選択必修
			病気の成り立ち（人体の構造と機能及び疾病Ⅱ）	2		
			栄養学入門（食品学を含む。）	2		
			健康栄養学	2	◆	
			ライフステージと病気の予防の栄養学	2		
			生活習慣病論	2	◆	
健康管理学概論			2	◆		
栄養診断演習			2			
健康とスポーツ		野外活動基礎実習	1			
		体育実技（水泳）	1			
		体育実技（剣道）	1			
		体育実技（球技Ⅱ）	1			
		体育実技（器械運動）	1			
		体育実技（陸上）	1			
		体育実技（球技Ⅰ）	1			
		体育実技（ダンス）	1			
		スポーツマネジメント	2			
		運動生理学	2			
		運動学（運動方法学を含む。）	2			
スポーツ社会学	2					
コーチング論	2					
体育原理	2					
ジュニアスポーツ指導論	2					
健康スポーツ医学（運動療法を含む。）	2					
トレーニング・フィットネス論	2					
スポーツ指導実践	2					
運動生理学演習	2					
トレーニング・フィットネス演習	2					
体育実技（柔道）	1					
健康運動指導論	2					
運動プログラムの管理（運動療法（2）を含む。）	2					
健康運動指導実習	2					
障害者スポーツ	2					

科目群分類		授業科目の名称	単位数	履修基準（必修：◎，選択必修：◆）	
身体領域	健康・保健・養護学	学校保健	2		
		看護学概論	2		
		基礎看護方法論Ⅰ	2		
		基礎看護方法論Ⅱ	2		
		薬理学概論	2		
		養護概説	2		
		ライフサイクルと健康	2		
		健康相談・健康相談活動Ⅰ	2		
		健康相談・健康相談活動Ⅱ	2		
		ヘルスアセスメントⅠ	2		
		ヘルスアセスメントⅡ	2		
		子どもの保健	2		
		青少年期発達支援論	2		
		高齢者の保健	2		
		健康教育・保健室経営演習	2		
社会福祉概論	2				
専門科目群	心理の研究法	心理学統計法Ⅰ	2		
		心理学統計法Ⅱ	2		
		心理学研究法	2		
		心理データ解析演習	2		
		心理学実験Ⅰ	2		
		心理学実験Ⅱ	2		
	心理学の理論	発達心理学	2		
		比較心理学	2		
		心と健康の心理学	2		
		知覚・認知心理学	2		
		学習・言語心理学	2		
		社会・集団・家族心理学	2		
		神経・生理心理学	2		
		感情・人格心理学	2		
	スポーツ心理学	2			
心理学の実践	臨床心理学概論	2			
	精神疾患とその治療	2			
	教育・学校心理学	2			
	障害者・障害児心理学	2			
	青年心理学	2			
	心理学的支援法	2			
	司法・犯罪心理学	2			
	産業・組織心理学	2			
福祉心理学	2				
心理職のための知識・技能	心理的アセスメント	2			
	関係行政論	2			
	心理演習	2			
	公認心理師の職責	2			
	心理実習	2			
		放送大学の開設する授業科目で別に指定するもの	2		
研究科目群	研究領域	健康科学演習	4		
		健への探究	4	◎	
	卒業論文	卒業論文	4	◆	◆2科目中1科目選択必修
健康科学研究	2	◆			

科目群分類		授業科目の名称	単位数	履修基準（必修：◎，選択必修：◆）
教職科目群	教育の基礎的理解	教育職入門	2	卒業単位に含めない。
		特別支援教育概論	1	
		教育課程論	2	
		教職教養Ⅰ	1	
		教職教養Ⅱ	1	
		教職論作文・面談技法Ⅰ	1	
		教職論作文・面談技法Ⅱ	1	
	道徳、総合的な学習時間等の指導法、生徒・教育相談	保健体育科教育法Ⅰ	2	
		保健科教育法Ⅰ	2	
		進路指導の理論と実践	1	
		生徒指導の理論と実践	2	
		道徳教育の理論と実践	2	
特別活動及び総合的な学習の指導法		2		
道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の理論		2		
教育方法及び技術（情報通信技術の活用を含む。）		2		
保健体育科教育法Ⅱ		2		
保健科教育法Ⅱ		2		
保健体育科教育法Ⅲ		2		
保健科教育法Ⅲ	2			
保健体育科教育法Ⅳ	2			
保健科教育法Ⅳ	2			
教育実践に関する科目	教育実習事前・事後指導	1		
	教育実習Ⅰ	2		
	教育実習Ⅱ	2		
	養護実習事前・事後指導	1		
	養護実習	2		
	教職実践演習（中・高）	2		
	教職実践演習（養護教諭）	2		
養護に関する科目	学校救急処置（臨床実習を含む。）	4		
	養護活動演習Ⅰ	2		
	養護活動演習Ⅱ	2		



Name